

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の高萩市における結果について

高萩市教育委員会



1. 調査実施日 令和 8 年 4 月 23 日（木）

2. 調査対象 市内 4 校の小学 6 年生（162 人） 市内 3 校の中学 3 年生（171 人）

3. 調査内容

① 教科に関する調査

小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

4. 調査目的

児童生徒の学力や学習環境、生活習慣の現状を把握し、学校教育の改善に役立てる

5. 教科別の結果分析の概要

(1) 小学校の結果分析

国語 平均正答率 54% (全体)



【成果】

- ①漢字の定着が図られています。例えば、日常で使われる「みじかい」（短い）を漢字に書き直すことができるなど、基本的な知識が定着しています。
- ②文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書くことができ、考えを表現する力が身に付きつつあります。

【課題】

- ①比喻や反復などの表現の工夫に気付く問題では、十分な定着が見られず、表現上の特徴や意図を読み取る力に課題が見られます。
- ②文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題では、必要な情報を見つけることに課題が見られます。

【改善の手立て】

- ①文学的な文章や説明的な文章を読む際、比喻表現や繰り返しがどのような視覚・感情的効果をもたらすのかを比較・体験する授業づくりを行います。
- ②目的に応じて文章と図表を丁寧に関連付け、必要な情報を抽出・再構成するような学習内容を取り入れます。

算数 平均正答率 47% (全体)

【成果】

- ①データの活用や比較の領域で成果が表れています。全員分のアンケートから集計誤りを見つけ、その根拠を説明する「データの活用」の問題では、データを読み取り、根拠をもとに考える力が身に付いてきています。
- ②「単位量あたりの大きさ」についても、単位量あたりの大きさを求める式の意味を理解し、その商から解答を導くことができ、成果が見られます。

【課題】

- ①基本的な「体積の意味」については、公式を用いて求めることはできても、体積の意味や概念についての理解に課題が見られます。
- ②「割合から基準量を求める問題」において、割合と基準量の関係を捉え、概念的なつながりを理解することに課題が見られます。

【改善の手立て】

- ①「体積」では、1立方センチメートルのブロックを実際に積み木のように組み立てる体験活動を行うなど、体積とは「単位体積のいくつ分か」という本質的な理解を促します。
- ②割合の問題では、数直線や図を用いた視覚的整理を繰り返すことで、比較量・基準量・割合の関係性を直感的に捉えられるよう支援していきます。

(2) 中学校の結果分析

国語 平均正答率 58% (全体)

【成果】

- ①「気持ちがより伝わる描写」では、表現の効果を考えて描写することができています。
- ②「ら抜き言葉」の理解は高く、日常語の中での単語の活用や表現の工夫に対する意識が高まっています。

【課題】

- ①書いた随筆を友達との交流を基に振り返る問題では、「文章の改善点」や「今後生かしたいこと」を具体的に捉え、記述することに課題が見られます。
- ②擬態語「きっぱり」の効果を、二つの例文を比較しながら説明する記述問題では、言葉の働きや表現の効果を捉えて説明することに課題が見られます。

【改善の手立て】

- ①単に「文章を書いて終わり」にするのではなく、相互推敲（ペアワーク）や「推敲メモ」を導入し、読み手の立場に立って指示語や接続語の効果を確かめながら文章を磨き上げる学習活動を行っていきます。
- ②擬態語・擬音語などの表現の効果に着目し、複数の例文を比較して、言葉を変えることで伝わる印象や場面の様子の变化について考えるなどの学習を取り入れます。

数学 平均正答率 49% (全体)

【成果】

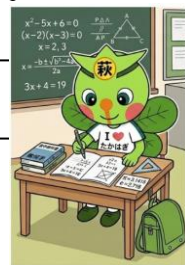
- ①全校生徒の学年別睡眠時間を表した箱ひげ図から読み取れる内容を選ぶ問題では、必要な情報を読み取る力は、おおむね身に付いています。
- ②同類項を整理する問題や、さいころの確率を求める問題では、基本的な知識や技能が身に付きつつあります。

【課題】

- ①「2直線が平行になるための条件」の根拠を記述する問題や、度数分布表から累積度数を求める問題では、図形の性質を根拠に基づいて論理的に説明したり、資料から必要な情報を読み取って考えたりすることに課題が見られます。
- ②グラフからデータ量を求める方法を説明する記述問題では、必要な情報を読み取り、数学的な根拠を示しながら説明することに課題が見られます。

【改善の手立て】

- ①図形の性質や割合・度数分布などについて、「なぜその答えになるのか」を図や式、言葉を用いて説明する活動を繰り返し行い、根拠を明確にして考える力を育てていきます。
- ②グラフや表から必要な情報を読み取り、数量を求める過程を自分の言葉で説明する活動を取り入れ、データを活用して考え、説明する力を伸ばします。



英語 平均正答率 38.5% (全体)

【成果】

- ①物語全体の展開を通して登場人物の気持ちの変化を読み取る問題では、登場人物の感情や心情の変化を捉え、文章を読み取る力が身に付いています。
- ②日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を聞き取る力が概ね身に付いています。

【課題】

- ①自分の考えや気持ちを理由とともに整理し、筋道立てて英文で表現することに課題が見られます。
- ②学校で普段行っている活動を英文で説明・発信することに課題があり、自分の考えや情報を整理して、まとまりのある文章として表現することに課題が見られます。

【改善の手立て】

- ①「何をしたいか」だけでなく「なぜそうしたいのか」を、「I want to ~ because ...」などの表現を用いて、自分の考えの根拠や理由を述べる活動などを今後も行っていきます。こうした活動を繰り返すことで、伝えたい内容を整理して、簡単な英語で表現する力を育成していきます。
- ②学校生活や日常の出来事など、身近で具体的な内容を英語で説明する活動を取り入れます。キーワードを手掛かりに英文を組み立て、書いた英文を友達に伝えるなど、技能を統合させ「書く→伝える→振り返る」といった活動を繰り返しながら、発信力を高めます。



7. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

学力は、日常生活の充実や自己肯定感、学校に対する幸福感と極めて密接に関連しています。高萩市の児童質問紙（小6）および生徒質問紙（中3）の回答データから、本市の児童生徒の強みと課題が見られました。

【高萩市の主な強み～ブランドデザイン「高萩市の教育」との関連から～】

	小学校6年			中学校3年		
質問項目 「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の割合＝%	市 平均	県 平均	差	市 平均	県 平均	差
人が困っているときは、進んで助けていますか。	97.5	93.0	+4.5	94.7	90.7	+4.0
自分の周りの人々に目を配り、他者の痛みに寄り添う「想いあう心」が、義務教育を通じて一貫して高く維持されています。今回見られた児童生徒の意識の高さは、本市が目指す姿と深く関連しており、今後の教育活動を推進していくための確かな土台となっています。						
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	88.9	79.9	+9.0	81.9	78.5	+3.4
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。	92.0	86.3	+5.7	91.3	87.4	+3.9
異なる立場や多様な考え方を肯定的に捉え、話し合い活動を自己の成長に結びつける傾向は、本市の目指す「つながりあう」教育と重なり合っています。義務教育を通じて培われてきた対話的態度は、本市の目指す教育を具現化していく上での大きな強みとなります。						
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	90.7	88.0	+2.7	90.0	86.2	+3.8
本市が掲げる「認め・伴走する」教育や「支えあう」教育の方向性と合致しています。教師が児童生徒の「分からない」を置いていかずに伴走してくれる信頼感が、本市の教育を円滑に推進する確かな基盤となっています。						

【その他の強み】

◎規則正しい生活習慣が定着している。＜小学校＞

- ・朝食を毎日食べる割合…86.4%（県 83.5%）
- ・同じ時刻に起きる割合…66.7%（県 57.3%）
- ・同じ時刻に寝る割合… 51.9%（県 42.2%）

◎市内の学校が安全で安心できる居場所として機能している。＜小学校＞

- ・学校へ行くのが楽しい割合…92.6%（県 86.8%）

◎高いキャリア志向と夢への肯定感が高い。＜中学校＞

- ・将来の夢や目標を持っていると答えた割合…45.6%（県平均 38.1%）



【高萩市の主な課題～グランドデザイン「高萩市の教育」との関連から～】

＜小＞小学校 ＜中＞中学校

＜小、中＞「算数・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」

＜中＞「英語の勉強は得意ですか」

「つながりあう」教育に関連することとして、前頁で述べたように異なる意見を考える楽しさや話し合い活動で、非常に高い数値を示しています。その反面、授業の中で自分の考えを言葉や数式・英文で説明・表現する活動の機会や理解度が不足しています。

【改善の手立て】

本市の子どもたちがもつ「話し合いが好き・人間関係が良い」という強みを生かし、グループで対話や共有をしたあと、自分の言葉（文章・式・モデル英文）でノートや端末にまとめて書く時間を確保します。

＜小、中＞「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」

＜中＞「ICT 機器を使って学校での活動で発表スライドを作成することができると思いますか」「ICT 機器で文書を作成することができると思いますか」

「高めあう」教育に関連することとして、本市では、すべての児童生徒が成長を実感できる「向上感」を大切にすることを掲げていますが、その一つの方策であるタブレット端末の活用頻度が低く、タブレット端末を使って文章を書いたり、プレゼンを作成したりするスキル・自信の低さが課題となっています。

【改善の手立て】

授業の終わりにタブレット端末で、振り返りを入力したり、総合や各教科のまとめでスライド作成のテンプレートを用いて発表資料を作ったりするなど、短時間の入力・作成する機会を習慣化し、操作への抵抗感を減らします。また、タイピングソフトや英語のライティング練習アプリを定期的に活用することで、操作スキルと自信を育みます。

＜小＞「学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

＜中＞「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」

「支えあう」教育に関連することとして、前頁で述べたように学校内では先生や友達と良好な関係（「学校が楽しい」等）を築けています。その一方で、家庭で学校の悩みについて共有する割合が低いことや、平日のメディア長時間利用、家庭学習の定着などにも課題が見られます。

【改善の手立て】

学校だよりや保護者面談等を通じて、学校での様子や頑張りを積極的に保護者に伝え、家庭での対話のきっかけをつくったり、スマホ・ゲーム利用に関するルールづくりを学校やPTAなどで共有したりします。また、学習支援ソフトや課題を端末で配信し、1日20～30分は端末を開いて復習する機会を設けるなど具体的で取り組みやすい家庭学習を定着できるように促していきます。

8. 今後の推進について

本年度、本市ではグランドデザイン「高萩市の教育」に掲げた重点テーマ『みんなで想いあう ～みんなが大切にされる教育の推進～』のもと、以下の視点から具体的な学校教育の推進を図ります。

1. 【支えあう】【高めあう】教育の推進

「向上感」と「振り返り」を大切にしたい授業改善

- 1時間の授業が終わったときに、すべての児童生徒が成長したと実感できる「向上感」のある授業づくりに励みます。高萩市の小学生の「違う意見について考えるのが楽しい（88.9%）」という受容力を生かします。一方的に解法を教え込むのではなく、多様な解決アプローチを児童生徒同士で共有し「お互いに高めあう」協働解決型の授業を実践します。
- 振り返りに重点をおいた授業改善をしていきます。すべての教科で「自分の考えを書く」「解き方の根拠を説明する」といった言語活動を強化します。授業の終わりに『分かったこと・分からなかったこと』など児童生徒自らが評価し、次の授業や活動につなげていきます。



「チーム支援」による合理的配慮の提供

- 学校が楽しい、自分にはよいところがあると回答した児童生徒ほど平均正答率が高いという質問紙調査の傾向を踏まえ、一人ひとりの心の安定を最優先した生徒指導・学習支援体制を「チーム支援」で構築していきます。
- 通常の学級における合理的配慮を徹底し、特別なニーズのある児童生徒を含め「みんなが大切にされる」教育を実践します。多様な意見を尊重し（お互いを認め合う学級づくり）、誰もが失敗を恐れずに自分の言葉で発表し合える温かい授業・環境づくりを徹底します。



2. 【つながりあう】教育の推進

ふるさとへの貢献とパートナーシップの深化

- 高萩の「過去・現在・未来」を主体的に探究する地域学習（「高萩学」）を一層推進します。高い夢や目標を持つ中学生が「地域や社会をよくするために何かしてみたい（76%）」という想いを具現化できる授業となるように設計していきます。
- 保護者や地域と「横に立つ関係」を構築します。小学生の「勉強のことを家族と話す（53%）」という学校生活の話題や悩みをいつでも家族と話し合える環境が学力を支えていることを踏まえ、家庭学習の動機づけや規則正しい生活習慣を「学校・保護者・地域の協働」で支えます。



高萩市教育委員会は、児童生徒一人ひとりの将来の夢や目標の実現に向け、以上の学校教育を推進してまいります。

